アオバズク

**『宮村小学校　学校通信』　　ＮＯ．６**【文責：校長】**２．８．２５**



**2学期開始**

２３日間の夏休みが終わりました。大きなけがや事故も聞いていません。保護の方がご家庭でお話しして

くださったおかげだと思います。ありがとうございました。新型コロナウイルスもまだまだ心配ですが、大きな行事もあります。2学期もご協力よろしくお願いいたします。

**気付き　考え　行動**

私たちが行動する際、ほとんどにいえることですが、まずは、気付き、そして、考え、行動しています。例えば、「ゴミが落ちていることに気付き、ゴミを拾おうと考え、拾って、ゴミ箱に入れるという行動を

します。」

他にも、「目の不自由な人がバス停にいるのに気付き、声をかけた方がいいか、かけない方がいいか考え

『何かお困りのことはないですか』と声をかけます。」

しかし、考える前に、行動する前に、気付きということが大切になってきます。国語や

算数の勉強も大切ですが、仕事のできる人は、常にアンテナを高くして、いろいろなこと

に、目配り、気配り、心配りのできる人だと言われます。私たち教師にも、子育てにも大

事なことになってきます。学校では、今日〇〇さんは元気がないな、何かあったのかなと

気付き、声をかけます。

ご家庭でも、うちの子何か元気ないんだけど、熱でもあるのではと気付き、「どうした、元気ないね、熱計ってみる？」と声をかけます。

宮村小では、全職員で、子どもたちの様子に細心の注意をはらっていきますが、まだまだな面もあります。何かお気付きのことがありましたら、学校までお知らせください。

**自己肯定感について**

『失敗に負けない「強い心」が身につく、世界標準の自己肯定感の育て方』（船津徹著[KADOKAWA]）より

親の謙遜を言葉通りに受け取る子ども

日本には独特の文化的習慣が多くありますが、世界から見て特徴的なものが「謙遜文化」と「集団主義」です。謙遜文化について説明します。「〇〇ちゃんは頭がいいね！」と、知人から子どもをほめられたとき、日本人の親は１００％、「そんなことはないよ、うちの子、全然できないよ」と否定します。もちろん親は謙遜しているのですが、これを横で聞いていた子どもは、「ボクは全然できないんだ・・・」と言葉通りに受け取ってしまう可能性があるのです。親の否定言葉ほど子どもの自信を下げるものはありません。

謙遜は本来「自分を下げる」ことが目的だったのですが、いつの間にか「身内を下げる」に変貌し、習慣化していきました。

「〇〇ちゃんは賢いね！と人からほめられたとき、「そうなの、うちの子、天才なのよ！」という肯定的な対応を日本でするのは相当な勇気が必要です。心の中では「うちの子は天才」と思っていても、人間関係を円滑にするために、「そんなことないよ！」と一度は否定するのが一般的ですよね、では、どうしたら子どもを下げずに、かつ周囲に嫌みにならない対応ができるのでしょうか。

褒められたら「子どもでなく自分をさげる」

　　我が子をほめられたときの対応策その１は「自分をさげる」ことです。「〇〇ちゃんは本当に賢いね」と言われたら「そうなのよ、トンビがタカを生んだのよ」「そうなのよ、私に似なくて本当によかったわ」と、子どもへのほめ言葉は受け入れ、すかさず親が自分を下げれば嫌みにならずに済みます（笑いにしないと嫌みになる可能性があるので注意）

　　対応策その２は「身内を上げること」です。「〇〇ちゃんは頭がいいね」とほめ

　られたら、「そうなのよ、旦那に似てくれて助かったわ」「そうなのよ、きっとおじ

いちゃんの隔世遺伝だわ」と、パートナーや身内をほめるのもいい方法です。身内

を下げるのはいけませんが、上げるのであれば何の問題もありません（こちらも笑

いにしないと身内自慢になる可能性があるので注意）。

　子ども自身も「自己否定」が口癖になると・・・

　　子どもは親や周囲の大人の言動からコミュニケーション方法を学びます。もちろん、「自分を下げる」という日本的なコミュニケーションスタイルも自然に継承していきます。個人差がありますが、小学校高学年からティーンエイジャーくらいになると、子どもも自分を「下げる」表現を使うようになります。友達から「すごいじゃん！」と言われると、心の中ではそう思っていなくても「そんなことないよ」「全然ダメだよ」「私なんて」と謙遜するようになります。最初は謙遜のつもりでも、自分を否定する言葉を口にすることが習慣化すると、本当に自己肯定感が下がってしまう危険性があります。（次号に続く）

９月の主な行事予定

９月　１日（火）避難訓練（地震）

　　　３日（金）みまたの日

　　　６日（日）PTA奉仕作業

１１日（金）道徳参観、学校保健員会、こども郵便局

１５日（火）全校体育

１７日（木）運動会練習

２３日（水）みまたの日

２４日（木）運動会練習

３０日（水）全校体育

* 火・金曜日はALT来校
* 水曜日は集団下校　となります。

　食育指導

　6月に、三股中学校の石井栄養教諭に来ていただき、3年生と5年生に食育の授業をしていただきました。食については、毎日のことでもあり、生涯考えていかなければならず、健康にも、不健康にもなります。保護者の方々も、栄養のバランスを考えながら、毎日、おいしい食事を作られていると思います。私も単身生活が8年目となり、栄養のバランスを考えながら、食事を作っています。（昼は給食で、晩御飯は鍋が多いですが、週末家に帰った時も、味噌汁を作ったり、昼ご飯を作ったりはします。まだまだ妻にはかないませんが、洗濯や片付けを頑張っています。）

　子ども達も、一人で生活することもでてくると思います。栄養のバランスを考えながら、食事をすること（食育）は、これからも大事なことです。



6月に、三股中学校の石井栄養教諭に来3年生と5年生の３３ていただき、3年生と5年生に食育の授業をしていただきました。食については、毎日のことでもあり、生涯考えていかなければならず、健康にも、不健康にもなります。保護者の方々も、栄養のバランスを考えながら、毎日、おいしい食事を作られていると思います。私も単身生活が8年目となり、栄養のバランスを考えながら、食事を作っています。（昼は給食で、晩御飯は鍋が多いですが、週末家に帰った時も、味噌汁6月に、三股中学校の石井栄養教諭に来ていただき、3年生と5年生に食育の授業をしていただきました。食については、毎日のことでもあり、生涯考えていかなければならず、健康にも、不健康にもなります。保護者の方々も、栄養のバランスを考えながら、毎日、おいしい食事を作られていると思います。私も単身生活が8年目となり、栄養のバランスを考えながら、食事を作っています。（昼は給食で、晩御飯は鍋が多いですが、週末家に帰った時も、味噌汁

　3年生は「なにを食べたら毎日元気にすごせるのだろうか」という学習問題でいろいろな意見を出していました。



　5年生は「地元でとれる食材のいいところを見つけ、活用する方法を考えよう」という「めあて」でがんばりました。